

# 愛知県(県域)

## 1 産地の概要

<対象品目> イチジク

<産地の現状・課題>

- ・ 県内のイチジク産地では、長年の肥培管理によりリン酸、カリが過剰に蓄積した園が多く見られる
- ・ 現地においては栽培特性に合わせた施肥量削減が求められている
- ・ 現行のいちじくワンタッチN-P-K(14-7-7)を改良したN-P-K(20-5-10)の有機入いちじくワンタッチ(改)(以下V型いちじくワンタッチ)によるリン酸の削減効果及び果実品質・収穫量への影響を確認
- ・ 基肥+追肥(5~10回)の施肥体系から年1回施肥による施肥の省力化を図る
- ・ 省力化に資する技術としてレシプロソーなどを活用したせん定作業の省力化・軽労化を目指す

## 2 検討体制

<愛知県組織と関係機関等の役割>

- ・ 農業経営課(事務局)
- ・ 農業革新支援センター(事業のコーディネート、技術指導、栽培マニュアルと産地戦略の作成)
- ・ 農業総合試験場園芸研究部(試験方法に関する助言)
- ・ 普及指導センター(実証ほ調査、検討会の参加)
- ・ JAあいち経済連(技術支援、検討会の参加)
- ・ JA(調査補助、農業者との調整)
- ・ 農業者(実証ほ管理、技術の検証)

## 3 グリーンな栽培体系

<環境にやさしい栽培技術>

取組項目	作業段階	新たに取り入れる技術
化学肥料の使用量低減・プラスチック被膜肥料対策	施肥	<取り入れる技術> リン肥料の低減 プラスチック被膜肥料の低減
		<見込まれる効果> リン49%削減 プラスチック被膜肥料10%削減

<省力化に資する技術>

作業段階	新たに取り入れる技術
作業時間低減・作業工程削減	<取り入れる技術> ・配合肥料+追肥の施肥体系から年1回施肥体系への移行 ・せん定作業の軽労化(レシプロソー(電動のこぎり)等の利用による軽労化)
	<見込まれる効果> ・施肥回数6-10回から1回 ・せん定作業時間50%削減

## 4 活動内容(予定)

<活動内容>

- ・ 栽培体系の実証・調査
- ・ 栽培体系検討会

<今後の展開>

- ・ 栽培マニュアルの作成
- ・ 産地戦略の策定